



|              |                                                                                     |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 言語文化学 Vol.5 編集後記                                                                    |
| Author(s)    |                                                                                     |
| Citation     | 大阪大学言語文化学. 1996, 5, p. 212-212                                                      |
| Version Type | VoR                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/78127">https://hdl.handle.net/11094/78127</a> |
| rights       |                                                                                     |
| Note         |                                                                                     |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

大阪大学言語文化研究科が誕生して丸 7 年、『言語文化学』も本号が第 5 号となる。そもそも「言語文化学」という学問が成立するのか、疑問を投げかける向きもあるが、本研究科も人間の一生にたとえればようやく小学生になったばかりであり、もっと長い目で見る必要があるだろう。一般に、言語学の研究者はますます精緻な理論を展開する一方で、言語以外の領域に対する関心が弱くなる傾向があり、逆に文化学を研究する者は関心が多方面に広がるあまり、説得的な議論を忘れがちである。少年期、青年期を迎える『言語文化学』から広大な視野と確固たる方法論を合わせ持った論文が輩出することを期待している。

第 5 号は、第 3 号までと同じく、 $\text{\LaTeX}$  を用いて言語文化研究科で完全版下を作成した。今回も助手の方々、とりわけ本年 3 月まで言語情報科学講座の助手であった岡本裕介氏にはほとんどの作業を引き受けていただいた。岡本氏のひたむきな努力に我々は何ら報いることができなかったが、この場を借りて深謝の意を表したい。また、論文の審査など編集に協力いただいた方々にも、改めて感謝する次第である。

1996 年 3 月  
編集委員会

## 編集委員

金崎春幸 坂内千里 アレクサンドル・ディボフスキー 藤田耕司 我田広之

岡本裕介 城野 充 戸上良弘 中村 洋 松井理直

宇川絵里 内山紀子 黄 愛玲 水田洋子 吉川史子